

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000127	
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社	
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム西山の郷	
所在地	京都府長岡京市奥海印寺三反畑8-1	
自己評価作成日	令和2年2月 10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
所在地	〒612-8243 京都市伏見区久我御旅町3-20
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、ご家族との面会が減ったり、家族交流会もできなかったが、ご家族から手紙を頂いて皆さんは安心して穏やかに生活することができた。スタッフからもお手紙と写真を添えてご様子をお伝えすることでご家族も安心して頂いた。ご本人、ご家族、スタッフとの絆を大切に、そして「共に生きる」ことを大切にし、ご家族と共にご本人を支える関係づくり、地域の中で暮らすことを大切にしている。 ・外出なども思うようにいかず、今までの生活がむづかしいところもあるが、感染予防に努めながら、「普通の生活」を続けることを大事にしている。 ・普段から体調に気になることがあれば、かかりつけ医や看護職員に指示を仰いだり、相談ができる医療連携が充実した環境の中で体調管理をすることができている。 ・おひとりおひとりの個性が発揮できるように書道や「大人の塗り絵」など作品として仕上げたものや、季節感のあるものを製作して壁面に飾り、励みや楽しみにしている。 ・週一回の移動スーパーは待ち遠しく、お菓子を選ぶ楽しさや社会とつながっている実感で活き活きとされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員は毎朝の朝礼で運営理念「個人の尊厳を大切に」「画一性・おしつけの排除」「地域社会との融合を図る」を唱和して実践につなげている。 ・お一人おひとりの好みや生活ペースを大切にしながら、何かを決めつけるのではなく、柔軟な気持ちと常に希望を失わない心を大切に日々のケアにあたっている。 ・コロナ禍であり、地域の行事などの中止となったが、その都度、安全を考えてできることを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近所の方とは必ず挨拶をし、天気の話や「お元気ですか」と声をかけてより良い関係を築いている。 ・退去された方のご家族とも交流が続いている。 ・近隣の地主の方のご好意にて散歩時にコスモスを摘ませて頂いたり、お野菜を頂いたりという交流を持たせて頂いている。 ・近隣の幼稚園から定期的に訪問して下さる園児さんとの和やかな時間の交流はコロナ禍の中で中止となったが、コロナウイルスが収まった時には訪問頂けるようにつながりがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・今年度は中学生の体験学習の受け入れは中止となったが、常に近隣の方の認知症の家族を抱かえる方の相談や見学を受け入れられる環境を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・コロナ禍ではあるが、感染予防対策をとりながら2カ月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。感染予防対策やユニットの状況や行事や日々の様子を報告させていただいている。 ・身体的拘束や虐待防止についての内部研修の様子などを議題にして話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に出席いただき、意見交換をしている。 ・市内や乙訓圏域での講演や研修には積極的に参加、地域ケアについて共有する事にてサービスの質の向上を心がけている。 		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット会議などで身体拘束についてマニュアルに添ってシートによる研修を行い、理解に努めている。 ・各階の移動は自由に行っている。気持ちや行動を制限しないように全職員で見守る体制にある。 		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市が開催する虐待防止の研修には管理者が参加している。 ・各職員が自己覚知を心がけながらストレスを蓄積しないように、情報や対応の工夫を交換できる場を作り虐待防止に努める。 ・様々な研修や書物の事例などを通して虐待について学ぶ機会を持ってケアに活かしている。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用されていないが、利用があった時には後見人の方と連絡をとりながら、その方が安心して生活できるように共に支援する関係を作っていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の前に見学やお試し入居を行う事が出来る。 ・本人やご家族の意向の確認や環境が変わることの不安な気持ちなどを傾聴することで、安心感に繋げている。 ・制度改正などについてはその都度説明を行い、理解を図っている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 入居者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の出席への呼びかけや、意見箱への投書などで意見や提案を聴く機会を設けている。 ・普段の様子や行事に参加された時の様子、体調や行動の変化などは面会時に伝えている。また、お会いできなかったときや急ぐときには電話で用件を伝えている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員の意見や提案事項はユニット会議などでまとめて、リーダー会議や職場運営会議、管理者会議へと繋げることに代表者に届くようになっている。 ・トップダウンではなくボトムアップ体制となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	・今年度は行われなかったが、職員レクレーションとして食事会を楽しみにしている。フロアを超えて職員の交流ができる。 ・勤務希望を聞いて仕事と家庭・趣味などの両立ができるように配慮され、どの人も安心して働ける環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・OJTで教育している。 ・各職員の力量に適した研修に参加してもらい、ユニット会議でプレゼンテーションをする場を作り研修内容の振り返り再確認する環境を作ると共に、発表することに慣れてもらう機会を設け様々なトレーニングが行える様に努めている。 ・京都府認知症実践者研修には経験や就業年数により順次受講している。 ・リモートで研修に参加できる環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・今年度は実施されなかったが近隣のグループホームとの交流があり、夏祭りなどで交流できるグループホームがある。 ・今年度は紙上で乙訓グループホーム連絡会で情報交換が行われた。 ・講習会にはグループホーム今里の参加もあり交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・家族と離れて暮らす寂しさや、環境の変化による不安や戸惑いをしっかり受け止め、そばにいてなるべく一人にしないようにしている。ご本人の様々な思いを何気ない会話や行動を真摯に受け止めることで安心してもらう。その人らしい生活に早く近づけられるように心がけている。 ・入居時に思いを受け止めたケアプランを作成して、1ヵ月目で日々の様子をスタッフ間で話し合い、馴染まれていく様子や新たな課題を確認しながら計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・事前面接を本人やご家族と行うと共に家族と個別に面談を行い思いや要望を傾聴している。 ・本人や家族の要望に耳を傾け話しやすい環境を保ち、ここでの生活が心地よく安心感を持ってもらえるように心がけて関係性を築いている。 ・ご家族の心配をサポートするとともに、なじみの家具などを持って来てもらうようことで、居心地のよい居室で、安心した生活が送れるようにしている。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・相談時の対応としては、本人および家族の意向に耳を傾けることで「今」必要とされている状況を把握して適したアドバイスができるように努めている。 ・トイレや居室などの場所の理解が難しい方もあり、また、転倒の危険も増えている。思いに早く気づき対応できるような、センサーを使用することもある。 ・不安をなくして安心して生活できるように、ご本人の意向、ご家族と一緒に福祉用具の使用を検討している。 		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯物を干したり、食器洗いなどできる力は活かしてもらって、ご自身がしっかり生活している気持ちになってもらう。 ・ご本人が組み立てられる生活をしっかり支えていき、共に生活できることを喜びとしている。 ・役割をもち、自信が持てるように、できることを引き出している。 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・面会の機会は少なくなっているが面会に来られた時のご本人の笑顔を大切に思っている。電話での連絡が多くなっているが、日々過ごされている中での会話や行事に参加された時の様子などを話したり、また、体調や認知症の症状の変化も伝えて、ご本人の状態を理解してもらい、ご意見、ご要望を頂いて、いつでも協力しあえる関係を築いている。 		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話をもっておられ、友人からかかってきたり、ご本人からもかけられたりと関係が続いている。 ・コロナ禍で今はできていないが、継続してきた趣味の教室にご家族と一緒に通われている方もいる。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者同士で並んでソファに座り、歌謡番組をみたり、新聞のテレビ欄をみて何を見るか相談したりしている。 ・今まで居室で過ごすことの多かった方もリビングに出てこられるようになり、テーブルを囲んで和やかに食事ができている。 ・テレビから話題が広がったり、旅行に行った話や子供の頃のことなどの話で笑い声があり、その声はまだ全体に広がり、温かい雰囲気を作っている。 ・昔懐かしい歌謡曲やフォークソングなど好みの曲をかけて場を和ませ、他者同士のつながりを深めている。 ・会話に入っていくにくい時は、スタッフが会話の橋渡しをして、孤立しないように環境をつくっている。 ・感染対策の一つとして距離を保ちながらも、席順に配慮をして安心して過ごして頂けるように工夫をしている。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・亡くなられた方のご家族からの相談もある。 ・近くに来たからと寄ってくださって、近況をつたえられ、ご家族が元気に過ごされていることにうれしさを感じる。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・何気ないことばをしっかりと聞き取り、日々の記録に落として、スタッフで共有している。実践できるようにユニット会議では具体的に話し合っている。 ・それぞれの思いや意向が対立しないように間に入りながら、おひとりおひとりがそれぞれの過ごし方ができるように見守っている。 ・疲れやすくなっている人には体調良く過ごせるように居室で休む時間をとっている。 ・体調の見守りの必要な方には居室で過ごす時間も多いが、音楽をかけるなど寂しくないように配慮している。 ・「元気なうちはできることはしたい」と食器を洗って下さる人に感謝の言葉を伝えている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の話や事前面接の記録やアセスメントに加えて、日頃の会話や行動の中から得た情報を共有してその方の馴染に近づく努力をしている。入居者同士の会話の中からもご家族への思い、故郷の思い出、趣味などを伺うことができるので、会話の中に一緒に入って話を聞かせてもらってケアに繋げている。 ・在宅でのケアマネから情報を得ることもある。 	/	/	
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりと過ごして頂けるように1日の過ごし方を考えている。 ・天気の良い日には散歩ができるようにしている。 ・声掛けをしながら入浴のタイミングをみたり、話をしながらその時の気持ちに合うこと(トランプなどのゲーム、カラオケ、ジグソーパズルなど)をしたり、また、一緒に洗濯物を畳んだりしている。 ・健康状態の把握に努め、朝食後にバイタル測定を行っている。排便の有無も確認している。 ・入居者同士が安心して楽しく食事ができるように入居者同士の関係から座席を考えている。現在はコロナ禍であり、職員は距離を保って食事をさせてもらっている。 ・長時間座位が保てない人にはこまめに横臥・離床をくりかえして体調を整え、リビングで過ごす時間を大切にしている。 	/			/
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット会議ではご本人が困っていることやできなくなったことだけでなく、できることを大切にする為にもアセスメントを行い、課題に対しては具体的な援助の方法を考え、できることは継続して楽しみと自信に繋げていく。 ・ご本人の性格やよいところを活かせるようにケアプランを立てている。ご家族にも意見を聞いたり、アイデアを頂いたりご協力いただくこともある。 ・医療面については看護職員に相談したり、かかりつけ医の指示のもと体調の見守りをしている。 				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランをもとに記録を書き、その時の様子や気づいたこと、快・不快などを会話を織りこみ記録して、よりよいケアに活かす努力をしている。 ・体調の見守りが必要な方にはバイタル、排便、食事、嚥下の状態などを記録しながら、気づきを共有し、食事の形態などを工夫している。水分摂取量や排尿量も記録して体調の見守りに活かしている。 ・援助計画の見直しを6ヶ月に1回は実施している。状態が変わったときは計画の見直しをしている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人やご家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・併設の訪問介護事業所から福祉用具の紹介など情報の提供など、在宅での方法や工夫などを伺い参考にしている。 ・オムツフィッターの資格をもっている方がいるのでその人にあつたパットの当て方や選び方を相談している。 ・パットの見本などは福祉用具店に相談している。 ・入居者のご家族が共用デイサービスを利用されており、週1回一緒に過ごされる時間があり、家族の団らんの時間となっている。どちらにとっても安心できている。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、コロナウイルス感染の影響で、地域の取り組みやボランティアとのつながり、地域の行事への参加、ボランティアの方との交流ができずに残念であったが、書道については、お手本を頂きに行ったり、作品を見てもらったり、長岡天神様の書初め展にも出展したり、継続してきたことが途切れないよに努めている。 ・畑の世話をしてくれる人もいて、夏野菜の収穫や秋には芋を収穫して楽しんだ。 ・移動市場が毎週金曜日に来てくれて、ご自身のおやつや皆さんのおやつを選んで購入して生き活きとされている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前のかかりつけ医を継続できるように、主治医として訪問診療をしていただいている。 ・地域医師会や地域の訪問看護ステーションの理解を頂いており、主治医の指示のもと適切な医療が行えるように連携が取れるシステムを構築している。 ・在宅療養手帳にかかりつけ医、看護師、職員が記入して連携している。専門医を受診する際にも持参して、記入していただいている。 特変があればご家族に連絡し、直接かかりつけ医と話をしてもらうなど、ご家族の意向を確かめながらかかりつけ医と連携して体調の見守りをしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・週に1度は看護職員の訪問があり体調管理をもらっている。日常の健康管理の相談や受診の判断の相談もしている。 ・看護師による、介護につながる医療的な知識として研修を行っている。役に立つ知識や技術について、職員が介護のなかでできることや観察力を高めることができている。 ・看取り期にも連携してその人らしく最期まで過ごせるよう支援している。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時にご家族から病状及び状態を聞いたり、看護師やソーシャルワーカーと連携し、かかりつけ医に相談して退院へ向けての支援の協力を行っている。 ・食事形態や摂取の状態などが心配な方は退院前に確認にいくなどして安全に食事ができるようにしてきた。 ・今までは面会にいくなど関係をつなぎ、安心感に繋げてきた。 ・今年は、病院、病棟のナースに電話で確認をして状態の把握に努めた。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・咀嚼や嚥下が難しくなったり、食事量や体重の減少、体力の低下の様子などがあれば看護職員やかかりつけ医に相談したり、ご家族にも話をさせてもらってどのように見守っていけばいいか、ご家族の意向を確認していく。 ・西山の郷の看取り指針をお話し、できる事・できないことをお伝えして、本人の意思とご家族の意向を確認しながら看取りを希望された時は、主治医の指示のもと医療連携を行ない、その方に応じた終末期のケアを行っている。 ・職員は研修にてスキルアップを図ると共に看護職員のアドバイスを実践することで、徐々にスキルを向上させて日々のケアに活かしている。 ・安楽に、また、温かい気持ちで過ごして頂けるよう、細やかに連絡をとり、ご家族にも安心して頂けるよう心をつくしている。 		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフルームには緊急マニュアルがあり、職員は常に確認している。 ・非常持ち出し用には既往歴、現病歴、薬の内容や家族連絡先などを記入してあり、変更があれば都度更新している。 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署と連携して年2回の避難訓練(総合避難訓練・夜間想定)を実施している。 ・日常的には避難経路の確保に努めている。 ・台風21号の時は停電が長びき長岡京市の支援で特養に避難することができた。 		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・お一人おひとりを尊重する言葉がけを心がけている。聞こえにくくなった方への配慮や他者同士の関係にも配慮している。また、その方にとってわかりやすい言葉を使うよう努めている。 ・入浴や排泄において全介助を必要とする方も増えてきている。また、羞恥心のないように同性介助や言葉がけも含めて、プライバシーに気をつけている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○入居者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食時の飲み物は牛乳の人、コーヒーの人、温かい飲み物、冷たい飲み物など好みのもので、パンも菓子パンがいい人もあれば食パンが好き人もあり、それぞれの好みのものを提供している。 ・外出時や入浴時などに着替えを一緒に選んだりしてご本人の好みやその時の気持ちを大切にしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や天候などを考慮しながら散歩、レクリエーションへの参加、入浴などの希望に添っている。 ・食事に時間のかかる方もあり、その方のペースで食べてもらえるよう見守っている。お一人おひとりの生活ペースを大切にしている。 ・話をきいたり、ビデオを見ながら歌をうたったり、それぞれにその日が心穏やかにすごせるように、ご本人の気持ちややりたいことを中心に過ごし方を一緒に考えている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や季節にあった服装ができるように気を付けている。着やすい服や気に入っておられる服装を基本にしている。 ・理美容師の訪問があり、男性は散髪、髭剃り、女性はカット、毛染めをする方もある。また、地域の美容室にいかれる希望があれば、付き添っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご飯の固さを入居者の好みに合わせ柔らかくしている。 ・野菜なども柔らかくしており、必要な人にはお粥やミキサー食、とろみが必要な方もあり、咀嚼や嚥下の力に合わせた調理をしている。 ・口腔ケアを行い口腔内の乾燥を防ぎ、水分を先にとってもらうことにより嚥下をスムーズに行えるようにしている。誤嚥を防ぎ口から食べることを大切にして支援を続けている。 ・食べ始めに介助が必要なとき、疲れてしまい食事が止まってしまうときなど、状況を見ながら、できるだけご自身で食事ができるように傍で介助や、見守りをして安全に和やかに食事をしている。 ・現在は皆さんが対面とならないように席を考えて安心して楽しく食べてもらっている。 ・下膳をしたり、食器を洗って下さる方があり、洗いものをしながらの会話も楽しかせてもらっている。 ・お好み食や、季節の行事食では、一緒に準備や調理をして食事が楽しめるように環境をつくっている。 		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 ○食事を楽しむことのできる支援 食量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量のチェックにより、食欲や体調の変化にも留意している。体重の増減にも注意をしている。 ・咀嚼や嚥下が低下している方にはミキサー食やとろみをつけたり、おかゆを提供している。 ・寝たきりで部屋食の方は、ゆっくり時間をかけ介助し、誤嚥を防いだ。 ・1度に多く食べられない方には、医師に相談し、ラコールやエンシュアなどで栄養補給をしている方もある。 ・飲み込みが心配な方にはお茶やポカリスエットにとろみをつけて水分補給をしている。 ・水分と排尿量と対比している人もある。 ・水分摂取量の少ない方はこまめに水分補給をして、夜間時にも必要に応じて水分補給をし、脱水予防をしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食後、洗面所にて歯磨き、義歯洗浄、うがいを促す。歯ブラシだけでなくスポンジブラシを使用したりして、ご自身にて行うことが難しい方は介助にて行っている。 ・口腔ケア後は気持ちもさっぱりしている。 ・寝たきりの方には口の中に食べ物がのこっていないかを確認し、誤嚥防止にも繋げた。 		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の前には声をかけてトイレに促したり、誘導することで失禁が減っている。 ・自分でトイレに行ける人もリハビリパンツを使用している人もあり、気持ちよく過ごしてもらうには確認が必要な時もある。プライバシーに配慮して声をかけたり介助をしている。 ・ベッド上での介助の方は排尿量などによってパッドの種類などを工夫をした。 		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分の補給を促している。ヨーグルトを週3回朝食につけている。 ・自然排便が困難になり、医師に相談して緩下剤を服用している方もある。排泄表に記入を行い、頓服として服用するときは排便の有無の確認を行う。 ・腸の動きがよくなるように体を温めたり、腹部マッサージを行ったりしている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や生活ベースを考慮しながら、ご本人の希望に添えるよう、時間やタイミングを考え、気持ちよく入浴していただけるよう工夫している。 ・できることはしてもらい、見守りつつもプライベートな時間をゆつくりと楽しんでもらえるよう配慮している。 ・体調によりシャワー浴や清拭、足浴、手浴で対応することもある。 ・車いすの方にはリフトで段差を解消して、座面が上下する機械浴を利用してもらい体の負担を少なくして入浴を楽しんでいる。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・夕食後にゆっくりテレビをみたりくつろぎたい方にはリビングでゆっくりしてもらって、その日にあったことや感じたことを話されるのを聞いている。気持ちが落ち着くと寝にいかれている。 ・日中でも休息を必要とする方や長時間座位がとれない方には横臥する時間をもち、体調を整えてもらっている。 ・夜間トイレ回数の多い方もあるが安全を見守り、安心して再入眠できるように声をかけている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の薬の内容と副作用等を理解して主治医の指示のもと服薬の支援をしている。 ・服薬時は誤薬や飲み落としがないように充分注意して行う。 ・錠剤が飲み込めない方は薬局で粉砕してもらってとろみをつけて飲み込みやすくして服薬介助をしている。 ・薬が変更になった時などには注意をして観察を行い。症状の悪化がみられた時は速やかに主治医に連絡をとっている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心のあることを生活歴や嗜好から見出して行えるように工夫する。 ・散歩やドライブなどへ出かけることにて、気分転換が行えるように、施設全体にて取り組み参加していただいている。 ・雑談をされる中で、新聞やTVのニュースを職員に話し様々な情報を提供くださることを張り合いに思っておられる方もある。 ・編み物など趣味の継続を支援している。 ・食器洗いや洗濯物を干す、畳むを役割としている方もある。 ・夏野菜の収穫の時期には畑へ行って家庭農園をされている方と談笑したりできている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の体調を十分に考慮しながら、桜や紅葉などの時期には、季節を肌で感じていただけることを大切にしている。 ・家族や友人と出かける方もある。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご自身での管理が出来ない方がほとんどとされているが、移動市場を利用して買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を持っておられ、自由にご家族にご友人にかけたり、かかってきたりと交流が出来る。 ・ご家族が用意された年賀状に言葉をさえられ出されたり、年賀状のやり取りをされている方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を感じていただける雰囲気作りを心がける。書道の作品などをリビングの壁画に飾ったり居室に飾ったりする中で会話を広げ、自信や居心地のよさにつなげている。 ・食べこぼしなどがないようにこまめに清掃している。 ・温度や湿度にも注意して感染症予防にも努めている。 ・トイレ使用後は清潔感を保ち、臭いにも配慮をしている。 ・コロナウイルス感染予防として手すり、テーブル、いすなどの消毒や手指の消毒を徹底した。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・一人で新聞を読んだり、テレビをみたりしながらも他者とも会話できる距離をソファの位置を変えて作っている。安心できる居場所づくりや利用者同士のつながりが保てるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室にはご本人が今まで使われていたものを持ちこんだり、写真を飾っていただいたりして、自由に居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。 ・仏壇をもってきておられる方は水をあげたり、お菓子をお供えされたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・居室の出入り口、廊下には手すりが設置されている。 ・ベランダの物干しは入居者が体に負担なく、干したり取り入れたりできるように低く設定されている。 ・浴室は座位にて浴槽に入れるような機械浴が設置されており、下肢筋力が低下してまたぐのが困難になった人にも浴槽につかってもらえている。また、出入り口にはリフトが設置されていて、車いすの方にも入浴を楽しんでいただいている。。 		